

2024 年第 21 週の報告です。

今週は定点報告対象疾患の**手足口病**の報告数が 20 週の 1.99 から 3.71 まで増加し、京都市南では先週に続き警報レベル、また京都市伏見区・乙訓・山城南・南丹の各保健所でも新たに警報レベルになりました。**咽頭結膜熱**は山城南と乙訓で今週も引き続き警報レベルです。

全数報告対象の感染症は、**結核**が 7 件、**カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**が 2 件、**劇症型溶血性レンサ球菌感染症・侵襲性肺炎球菌感染症**と百日咳が各 1 件、**梅毒**が 4 件報告されました。また、基幹定点の報告として、**無菌性髄膜炎**が 1 件、**マイコプラズマ肺炎**が 4 件、眼科定点として**流行性角結膜炎**が 4 件報告されました。

手足口病の感染が京都府でも全国でも昨年を上回るペースで報告例が増加しています。最近では 2019 年や 2022 年に全国的な大流行がありました。コクサッキーウイルスやエンテロウイルスなどが原因となり、乳幼児を中心に夏季に流行が見られます。大人が罹患することもあります。予後良好な疾患ですが、稀に急性髄膜炎や脳炎などで死亡する例もみられます。感染後 3～5 日の潜伏期の後に、口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に 2～3mm の水疱性発疹が出現します。発熱はあまり見られず 38 度以下のことがほとんどです。有効なワクチンはなく、特異的な治療法也没有。症状が強い場合は対処療法がおこなわれます。水分補給と手洗いが重要です。通常のアルコール消毒では不十分ですので、酸性アルコールもしくは次亜塩素酸ナトリウムを用いて消毒をしてください。また便を介しての感染もあり、感染後 2～4 週間は注意が必要です。糞便のついたおむつはビニール袋に入れて処理をする、処理後はしっかり手洗いをし、おむつのごみ箱およびその周辺をこまめに消毒するなど注意してください。